

事例紹介 都市公園整備の状況

蓮と鳥の浮かぶ城内公園

佐賀県佐賀市

佐賀市の中央に位置する佐賀城内公園は、鍋島氏の居城である佐賀城跡であり、昭和32年に、24.6haの県立都市公園として開設され、現在に至っている（図1、表1）。

公園は北、西、南の三方を濠に囲まれ、中には県庁、博物館、美術館などが設けられている。北濠、西濠では土砂が堆積し水質、景観的に環境が悪化してきたため、昭和55年から61年にかけて公園維持管理工事として浚渫が行われた。これに関する自然環境保全対策、浚渫の工法については、様々な検討がなされ

て、類似の濠を持つ公園にとって参考になるところが多い。

以下の資料は、佐賀県土木部の提供資料によりとりまとめたものである。

表-2 主要施設

1	体 育 館	2,205m ²	9	児 童 遊 園 地	2 箇所
2	図 書 館	1,258m ²	10	美 術 館	3,644m ²
3	噴 水	3 基	11	博 物 館	2,149m ²
4	便 所	3 棟	12	茶 室	57m ²
5	平 和 の 像	1 基	13	鯱 の 門	367m ²
6	万 部 島	3,134m ²	14	広 場	
7	お 堀	約11ha	15	城内公園管理事務所	
8	鷺 鳥 小 屋	2 箇所			

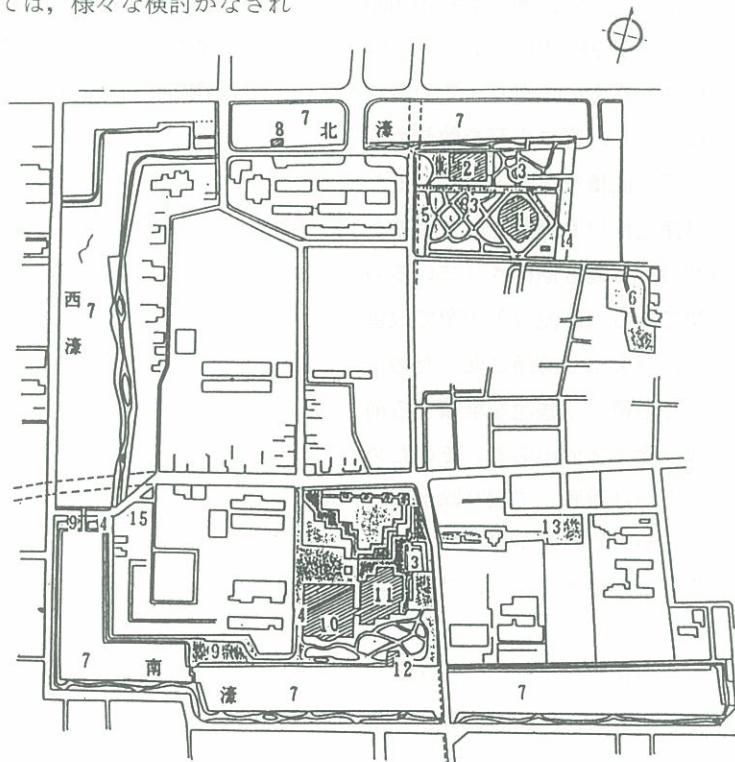


図-1 城内公園平面図

1) 事業の目的と経緯

佐賀城跡は以前四方を濠に囲まれていたが、現在は東濠は存在せず、北、西、南濠が残っているだけである。濠は佐賀市内を北から南へ流れる多布施川の支流で、北濠から入った水は西濠、南濠を通って城跡外へ流出している。

北濠は当時、水深0.3m程度で、水が滞留して変色したり、一部では水草が繁茂するなど、県庁前の濠としては景観上好ましくない状況にあった。

一方、西濠も水深0.3m程度で、さらに戦後食糧として植えられた蓮が繁茂し、水質の悪化、蚊の発生原因となっていた。しかし、蓮の緑や美しい花は周辺の重要な景観要素となり、多くの市民に親しまれており、また、水面は野鳥が多く飛来し、重要な生息場所となっていた。

この水質、景観上の問題に加え、県庁周辺低平地の排水対策上、濠は調整池として重要な役目を果たしており、この防災面からも改善が求められていた。

これらの問題について諸々の検討がなされ、浚渫により水深を1.5mまで確保する計画になったが(図2)，西濠の蓮については、保全の要望が強かったため、全体面積15,000m²の

内3分の1の5,000m²を残すこととなった。

2) 事業計画の概要

事業計画の概要是表2に示すとおりである。

表-2 事業計画の概要

項目	工期(昭和)	浚渫土量V(m ³)	工事費(千円)
北 濠	55～60年度	18,000	約100,000
西 濠	60年度	10,000	約 50,000
	61年度	12,000	約 60,000

このうち、西濠については蓮が繁茂しているため、次のような工法で浚渫が行われた。

- ① 蓮の伐採及び蓮床の根固め
- ② 浚渫………当初、濁りの発生が少なく、水を落とさずに浚渫できるマッドイーターを利用したが(図3)，蓮の纖維の障害が大きかったので、その後水を落とし、バックホウで浚渫した(土量22,000m³)。
- ③ 残土処理…ダンプ(6 m³/台) 5～6台により、ここから22km離れた処理場に運搬した。

以上のような浚渫の結果北濠、西濠は水質、景観が大幅に改善され、防災機能も向上し、

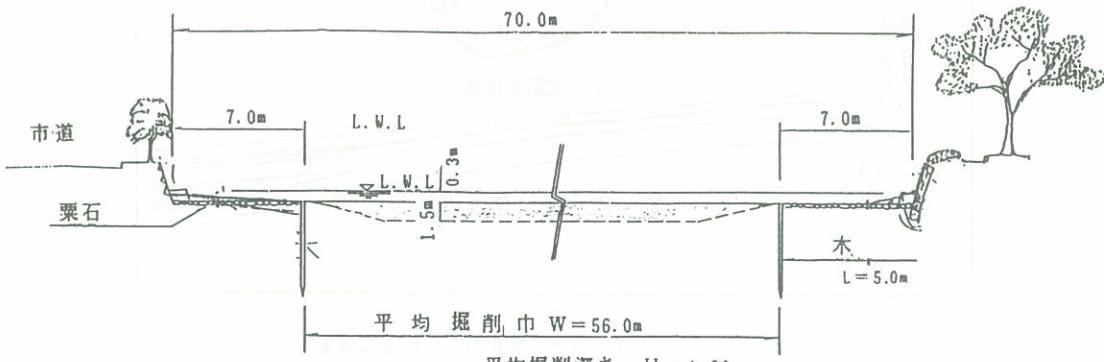


図-2 標準横断図

また野鳥、魚類の生息場所としても従来どおり機能を維持している。

(佐賀県土木部提供資料を当協会で要約、要約者 古賀照久)

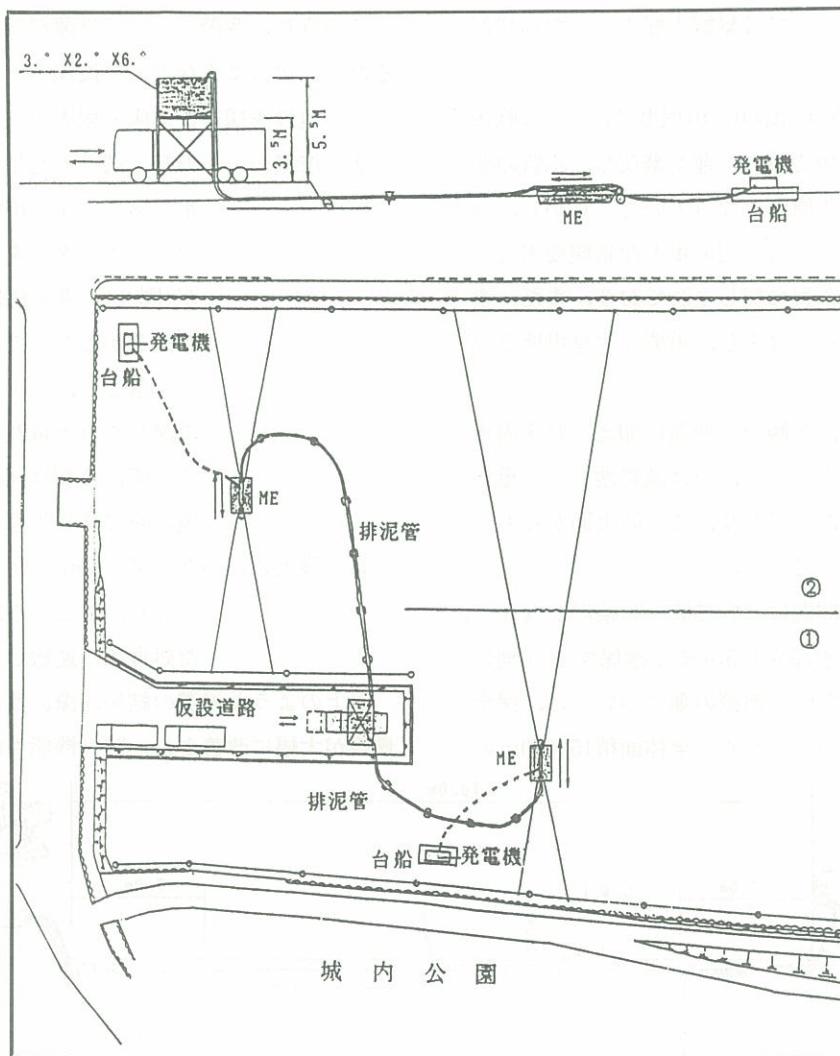
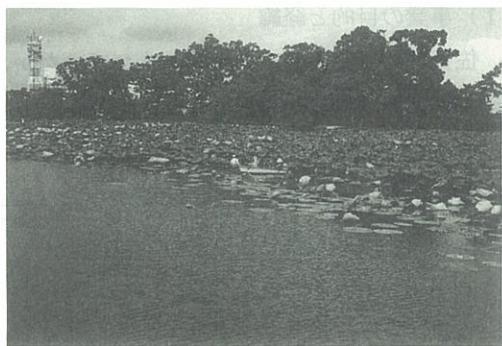


図-3 マッドイーター(ME)による浚渫概要図